

メキシコの政策金利引き上げについて

ポイント① 政策金利を5.25%に引き上げ

11月17日、メキシコ中央銀行は金融政策決定会合を開催し、政策金利であるオフィシャル・オーバーナイト・レート（OFR）を0.50%引き上げ、年率5.25%とすることを決定しました。

利上げは今年に入って4回目となります。利上げ幅は市場予想通りでしたが、一部の市場参加者は0.75%以上の利上げを予想していました。

ポイント② ペソ急落によるインフレリスクに対応

今回の決定には、メキシコペソの急落がインフレ率の上昇につながるのを防ぐ狙いがあります。

米大統領選挙で、メキシコへの強硬姿勢を打ち出してきたトランプ氏が予想外の勝利を収めたことを受け、同国経済の先行きに対する懸念が強まったことなどから、メキシコペソは対米ドルで史上最安値を更新し、その後も最安値圏で推移しています。

また、10月のインフレ率は+3.1%となり、同中銀の目標とする3%を約1年半ぶりに上回りました。今後の見通しについて同中銀は、インフレ率が緩やかに上昇し、3%をやや上回って推移すると予想しています。

このような状況のもと、同中銀はメキシコ経済や金融市場をめぐる不確実性が高まっていると指摘し、インフレ圧力に対応するために、今回の利上げを決定したと説明しています。

ポイント③ 利上げ幅が一部予想を下回りペソ安

11月17日の外国為替市場（ニューヨーク時間17時頃）では、利上げ幅は市場予想通りだったものの、一部ではより大幅な利上げを期待する向きもあったことなどから、対米ドルで前日比1.1%、対円で同0.1%程度のメキシコペソ安となりました。

今後の金融政策について同中銀は、為替レートなどがインフレ率に与える影響や、米国の金融政策の動向などを注視していくと説明しており、一部の市場参加者は追加利上げを予想しています。

図1：政策金利の推移

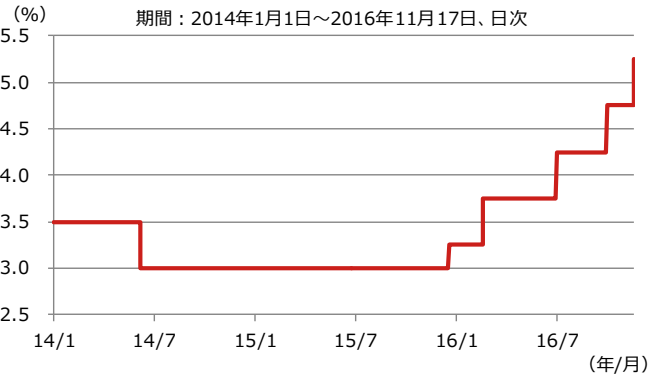


図2：消費者物価指数（前年同月比）の推移

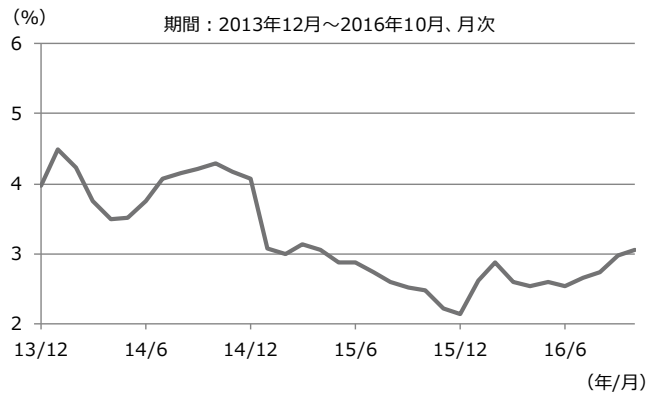
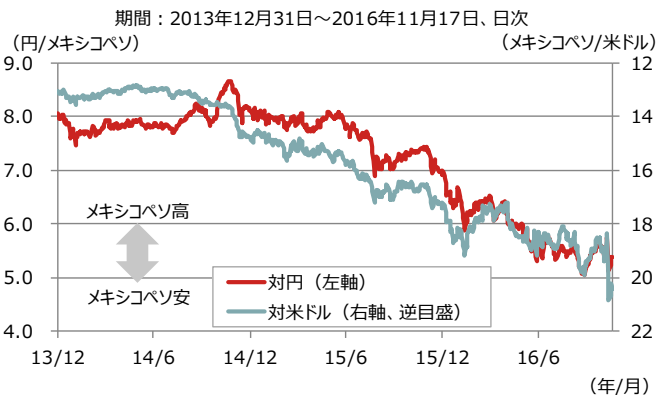


図3：為替レートの推移



(出所) Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成

重要
イベント

12月8日	消費者物価指数(11月)
12月12日	鉱工業生産指数(10月)
12月15日	金融政策発表